

専門学校 愛知保健看護大学校
保健看護学科

二〇二六年度 入学試験（一般Ⅰ期）

国語総合（現代文）

注 意

1. 問題は全部で7ページあります。
2. 解答はすべて解答用紙に記入して下さい。
3. 試験終了後、問題用紙、解答用紙、全て回収します。採点対象となるのは、解答用紙です。

二〇二六年度 一般入試 国語【I期】 問題用紙

問題一 次の文章を読み、あとの問に答えなさい。

子どもは「ふしぎ」と思う事に対して、大人から教えてもらうことよって知識を⁽⁴⁾キユウシユウしていくが、時に自分なりに「ふしぎ」な事に対して自分なりの説明を考えつくときもある。子どもが「なぜ」ときいたとき、すぐに答えず、「なぜでしょうね」と問い返すと、面白い答が子どもの側から出てくることもある。

「お母さん、せみはなぜミンミン鳴いてばかりいるの」と子どもがたずねる。「なぜ、鳴いてるんでしょうね」と母親が応じると、「お母さん、お母さんと言って、せみが呼んでいるんだね」と子どもが答える。そして、自分の答に満足して再度質問しない。これは、子どもが自分で「説明」を考えたのだろうか。

それは単なる外的な「説明」だけではなく、何かあると「お母さん」と呼びたくなる自分の気持もそこに込められているのではなからうか。だからこそ、子どもは自分の答に「納得」したのではなからうか。そのときに、母親が「なぜって、せみはミンミンと鳴くのですよ」とか、「せみは鳴くのが仕事なのよ」とか、答えたとしても「納得」はしなかったであろう。たとい、せみの鳴き声はどうして出てくるかについて⁽¹⁾「正しい」知識を供給しても、同じことだったろう。そのときに、その子にとって納得のいく答というものがあ

る。「そのときに、その人にとって納得がいく」答は、「物語」になるのではなからうか。

せみの声を聞いて、「せみがお母さん、お母さんと呼んでいる」というのは、すでに物語になっている。外的な現象と、子どもの心のなかに生じることがひとつになって、物語に結晶している。

人類は言語を用いはじめた最初から物語ることをはじめたのではないだろうか。短い言語でも、それは人間の体験した「ふしぎ」、「おどろき」などを心に収めるために用いられたであろう。

古代ギリシャの時代に、人々は太陽が熱をもった球体であることを知っていた。しかしそれと同時に、彼らは太陽を四頭立ての金の馬車に乗った英雄として、それを語った。これはどうしてだろう。夜の闇を破って出現して来る太陽の姿を見たときの彼らの体験、その存在のなかに生じる感動、それらを表現するのには、太陽を⁽²⁾黄金の馬車に乗った英雄として物語ることが、はるかにふさわしかったからである。かくて、各部族や民族は「いかにしてわれわれはここに存在するのか」という、人間にとって根本的な「ふしぎ」に答えるものとしての物語、すなわち神話をもつようになった。それは単に「ふしぎ」を説明するなどというものではなく、存在全体にかかわるものとして、その存在を深め、豊かにする役割をもつものであった。

ところが、そのような「神話」を現象の「説明」として見るとどうなるだろう。確かに英雄が夜毎に怪物と戦い、それに勝利して朝になると立ち現われてくるという話は、ある

程度、太陽についての「ふしぎ」を納得させてくれるが、そのすべての現象について説明するには都合が悪いことも明らかにようになってきた。たとえば、せみの鳴くのを「お母さんと呼んでいる」として、しばらく納得できるにしても、しだいにそれでは都合の悪いことがでてくる。

そこで、現象を「説明」するための話は、なるべく人間の内的世界をかかわらせない方が、正確になることに人間がだんだん気がつきはじめた。そして、その傾向の最たるものとして、「自然科学」が生まれてくる。「ふしぎ」な現象を説明するとき、その現象を人間から切り離したものととして観察し、そこに話をつくる。

このような「自然科学」の方法は、ニュートンが試みたように、「ふしぎ」の説明として普遍的な話(つまり、物理学の法則)を生み出してくる。これがどれほど強力であるかは、(b)シュウチのとおり、現代のテクノロジーの発展がそれを示している。これがあまりに素晴らしいので、(c)近代人は「神話」を嫌い、自然科学によって世界を見ることに心をつくしすぎた。これは外的現象の理解に大いに役立つ。しかし、神話をまったく(e)ホウキすると、自分の心のなかのことや、自分と世界とのかかわりが無視されたことになる。

せみの鳴き声を母を呼んでいるのだと言った坊やは、Xとしてはまちがっていたかも知れないが、そのときのその坊やの「世界」とのかかわりを示すものとして、もつとも適当な物語を見出したと言うことができる。

ところで、赤づくしの服装の人に二度も出会った人が次に三度目に出会う。そして、「わかった。あれはCIAの人物が僕をつけ回しているのだ」と判断したとする。このような解釈は、自分の心の状態を表現するにはピッタリかも知れないが、A 事実の(d)ギンミをまったく怠っている。あるいは、内的事実と外的事実が取り違えられていると言える。このようなときは、妄想と言うことになる。

このことは逆に考えると、精神病的な妄想と言えども、それを「異常」としてのみ見るのではなく、その人が世界と自分とのかかわりを、何とか自分なりに納得しようとしたり、それを他人に伝えようとしたりする努力のあらわれとして見ることもできる。

自然科学と妄想との間に「物語」があると考えると、その特性がわかる。簡単に言うと、自然科学はB 事実、C 事実に縛られた「物語」ということになる。

河合隼雄『物語とふしぎ』第1章「ふしぎと人生」より

註 *CIAアメリカ中央情報局。国外情報の収集・分析を目的とする大統領直属の独立機関。

問一 傍線(a)～(d)のカタカナを漢字に直して書きなさい。

問二 Xに入れるのに最適な語句を次の(ア)～(エ)の中から一つ選び、記号で書

きなさい。

- (ア) 物理的現象
- (イ) 科学的説明
- (ウ) 心情的解釈
- (エ) 根本的原理

問三

A
C

には、「内的」「外的」のいずれかの語句が入る。それぞれに適切な語句を書きなさい。

問四

傍線(1)「正しい」知識」と同じ意味で用いられている表現を、文中から五字以上十字以内で抜き出して書きなさい。

問五

傍線(2)と対比されているものを、文中から五字以上十字以内で抜き出して書きなさい。

問六

傍線(3)とあるが、ここに含まれている筆者の考えの説明として最適なものを次の(ア)～(エ)の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- (ア) 近代人は、自然科学の限界を感じ始めると同時に、「神話」に対しても懐疑的な目を持ち始めてきている。
- (イ) 近代人は、昔からある「神話」に科学的な解釈を施すことにより、現代の優れた文明を進歩させてきた。
- (ウ) 近代人は、自然科学をテクノロジーの発展に役立てるだけでなく、人間の内面的問題にまで利用しようとしている。
- (エ) 近代人は、自然科学による世界観ですべてを見ようとするため、人間の存在を深め豊かにする心を失いかけている。

問七

筆者は「物語」をどのようなものとしているか、その説明として最適なものを次の(ア)～(エ)の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- (ア) 外的な現象に各自の想像的な解釈を施して自分とかけ離れた世界を築くもの。
- (イ) 外的な現象を普遍的なものにするために自然科学による説明を排除したものの。
- (ウ) 外的な現象に科学的な解釈をすることで誰もが理解できるようにしたもの。
- (エ) 外的な現象を自分自身とのかかわりを通して説明しようとしたもの。

問題二 次の文章を読み、あとの問に答えなさい。

中学二年の時、一は初めてバレンタインデーに贈り物を貰った。ちよう千葉からだ。

直接手渡されたのではなく、家に帰ってスポーツバッグ、当時は大きな人工皮革のバッグを肩にかけて通う学生がほとんどだった、とにかく何でも入る、その中に小さなりボンのついた包みをみつけた。掌てのひらに入るほどの小ささだった。(一)狐につままれたような思いで開けると、メッセージカードとチョコレートが出て来た。

その日は二月十四日に違いなかった。二、三日経ってから、夜だったと思う、バイト先から戻った涼子がそれまでどう部屋の中で時間を過ごしていたのか知らないが、一のところへやって来た。あるいは一の方が喉が(a)カワくなり何なりして、台所へ立った折だったかも知れない。姉の部屋と弟の部屋は間に洗面所と台所を挟んで、特に台所は姉の部屋に近く、部屋の中から台所にいる者に話しかけることができた。

「これ食べる？」

涼子は一に綺麗な装飾の施された小箱を差し出した。

「渡し損ねたの。よかったらひとつ上げる」

素晴らしいながら、箱の中に並んだ紡錘形の菓子を自分の口に入れた。

誘われるままに一は手を出した。

「ブラック」

と訊いた。

「ウイスキーボンボン」

涼子は答えた。小箱の内側にはプラスチック製の受け皿があり、三個入りだった。一はとり上げたボンボンを舌の上に載せたまま、口を嚙くんでいた。残った一粒に目をやったが、欲しいと思わなかった。口腔こうくうに苦い感覚が広がった。

その夜、目が(b)冴さえてなかなか寝つくことができなかった。体の奥が熱いような、頭の芯が痛むような、それでいてどこか陶然とした感じがした。

翌日、朝の食卓で一は何という理由もなく、いつもとは違う気持ちで、斜向はすかいに座る涼子を眺めた。姉は気づかず、そそくさと食事を済ませると、席を立った。ろくに弟を見なかった。交わす言葉は毎朝「おはよう」くらいで、皆(c)寡黙寡黙である。

一は千葉から貰ったチョコレートの方は、しばらく包みを開けたまま、机の引き出しに入れておいた。偶然こちらも同じ数が入っていた。一は三つとも自分で食べ、姉には話さなかった。

涼子は高校を出ると、かねてからの志望通り、美容師になる勉強を始めた。アルバイトは卒業後も続けたが、職種は替ったのかも知れない。美容関係のバイトをしていると、一度一に話したことがあった。

髪を染めたりして、(d)ハゲハゲな洒落気も見せ始めたが、職業柄だろうと、家族は納得している恰好だった。美容学校での成績はなかなか優秀らしかった。

その学校に通い始めた年の秋、涼子は家を出た。ある美容師と知り合い、将来を約束し

た、と両親に話しているのを、一は壁越しに聞いた。

「結婚は？」

母親の心配そうな声がした。

「そのうちに。今はまだ……」

涼子は言葉を濁し、それきり黙った。

「迷惑のかかるようなことは絶対しません」

用意していた言葉のように一には聞こえた。こんな場合に のようだった。

一はそれまで、姉にそういう男性がいることに全く気づかなかった。バレンタインデーの贈り物を渡し損ねたという相手だろうか、咄嗟とっさにそれだけ思いついた。それ以上想像しようがなかった。

盗み聴きは褒められた業ではないが、のこのこ顔を出すのも変かと、結局、話を聴き続けた。

父親は終始言葉少なだった。迷惑はかけないと姉がもう一度いった時、

(2) 「当たり前だ」

声を荒げて応じた。それきり皆、押し黙った。

「相手の人に会いたいわね、私たちも、一度会ってみないと」

母親が途切れがちにいうのを、一は机の上に置かれた携帯用の目覚し時計の針をみつめながら聞いていた。話を耳で追うことに疲れ始めると、

「人の勝手だ。どうでもいい」。

と呟いた。手を伸ばして目覚し時計をとった。旅行に持って行くのに便利だからと携帯用を買ったのに、まだ一度も一人で旅に出ていないことを思い出した。一人でなくても別に構わないのである。同級生とでも、家族とでも。(3) ただ、この真新しい時計を持って出 かけたい、それだけだった。

姉はその後間もなく、荷物も持たずに出て行った。高校受験の準備で、一の周辺は(4) 慌 ただしかった。教師がいくら発破をかけても、生徒たちはどういものかのんびりして お り、枯葉の風に舞う音などを懐ゆかしがっていた。それとも、一ひとりかも知れない。秋の音 など、それまで一度も聞いたことがないのに、その年初めて聞いたのだろうか。家族の一 人減った家はさすがに静かだった。

「一、ちょっとテーブルの上のものを下げてくれる」

それまで姉がしていた家の手伝いの一部が、残った弟の方に回って来た。そんな時はいやおうなしに、誰かがここを去ったことを思い出さなければならなかった。

「(4) きちんと結婚してからなら、誰も反対しないのよ。世間にも恥ずかしいことはない し」

母の叱言こいごを父親は聞きたがらない。叱言が始まると、必要でない音を立てたり、例えばわざと騒がしく新聞をめくるといったことだが、そうでなければ立ち上がってどこかへ行ってしまおう。

母親はそれで一を相手に話し始める。十五歳になる受験生の息子が相槌あいつちを打っても打たなくても。

註 *千葉IIと同じ学校の同級生。

山本昌代『ウイスキーボンボン』より

問一 傍線(a) 〳 (e) のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直して書きなさい。

問二 傍線(1) とはどのような「思い」か。次の文の空欄(i)には文中から、(ii)にはあとの(ア) 〳 (エ)の中から、それぞれ最適な言葉を入れてわかりやすく説明しなさい。(ii)については記号で答えること。

その日が

i

 であることも知らず、小さなリボンのついた包みが
バッグに入っていることへの

ii

 な気持ち。

- (ア) 不可解
- (イ) 奇妙
- (ウ) 非現実的
- (エ) 不気味

問三

--

に入れるのに最適なものを次の(ア) 〳 (オ)の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- (ア) 姉らしくない台詞
- (イ) めったに聞かれない台詞
- (ウ) 誰もがいう台詞
- (エ) 思わず緊張してしまう台詞
- (オ) 親の心を揺さぶる台詞

問四 傍線(2)とあるが、この時の父親はどのような思いでいると考えられるか。次の(ア) 〳 (オ)の中から、最適なものを一つ選び、記号で書きなさい。

- (ア) 息子が隣室で聞き耳を立てていることを知っていて、息子にも聞かせたいという気持ち。
- (イ) 何を言っても娘の決意は固く、変えられないだろうと悟り、投げやりな気持ち。
- (ウ) いつまでもはつきりと自分の意見を主張しない母親に対して、苛立つ気持ち。
- (エ) 実際には迷惑のかかることを「迷惑はかけない」と言う娘を諫めようとする気持ち。

(オ) 娘が、唐突に同棲することを持ち出したことを受け入れられず許しがたい気持ち。

問五

傍線(3)とあるが、一にとって「携帯用の目覚し時計」はどのような意味を持っていると考えられるか。次の(ア)～(オ)の中から最適なものを選び、記号で書きなさい。

- (ア) 現在の自分を新しい世界へ導いてくれるもの
- (イ) 家族や友人とのコミュニケーションツール
- (ウ) 姉と家族との確執を忘れさせてくれるもの
- (エ) 姉が家を出ていくことを予期させるもの
- (オ) 現在の自分のライフスタイルを見つめ直すもの

問六

傍線(4)から母親の考え方を読み取り、母親が重視していることを漢字三字で書きなさい。

